

「de mano(じまあの)」は、牛豚肉を加工する「まあの」が発行するミニコミです。生産地の様子や生産者の声、「まあの」からのお知らせや小村の個人的な関心事などを掲載しています。

「mano」はエスペラント語で「手」の意味です。生産と消費が「手」つなぐ肉流通を作り、「手」作業主体の職人の技術で肉を加工するという意を込めています。

まあのから
de mano
エスペラント語で「mano」は「手」、
「de」は「～から」という前置詞です。

発行:まあの 【火曜定休】

兵庫県尼崎市戸ノ内町5丁目8-6

☎ 06-6495-2546

☎ 06-6495-2900

✉ mano0298@snow.plala.or.jp

HP <https://www.e-sora.net/mano/>

大鹿村に行ってきました

8 月 23 日(土)・24 日(日)

今回初めて安全農産供給センター主催でやっていただき、まあのはサポートに回りました。10 人乗りレンタカーで、センターの荒木さんとまあのの小村が交代で運転しました。9 人の参加者でしたが、センターから 4 人、いくの生活ともの会から 2 人、そして長崎の土と文化の会からお二人が来て下さいました。さらに日曜日には、枚方のやさいの会からご家族 3 人で来ていただきました。このたび最高にうれしかったのは、青木連さんに婚約者が現れたこと！ お隣の飯田市出身の宮澤彩さん。牛が大好きで、コロコロ笑う、明るい元氣娘です。4 月からこちらに来ているとか。青木さんも良き伴侶を得て、充実した生活が過ごせるでしょう。



農家カフェ BAU での日曜のお昼は、四つの消費者グループが集まり生産者も交えて、ランチミーティングになりました。まあのからは現状を踏まえての提案をしましたが、皆さん他人事でなく、真剣に先のことを考えていただいて、まさにこの関係こそまあのが目指してきたものだと感じ入りました。

先行きの不透明さに不安を持つ青木さんが「やるんですか、やめるんですか」と詰め寄りますが、それには答えに窮します。とりあえず、次の仔牛を 5 頭仕入れることを決めました。つまり再来年前半まではまあのを続けるということです。

——感想をいただきました——

牛とリニアと

池村奈津子

異常なほど猛暑が続く夏、大鹿村は涼しいだろうと避暑気分でバスの旅。今回は 9 名でのツアー。京都発ということで気持ちが少し楽だった。4 時間半で大鹿村の大西公園着。お弁当を 6 段いれた箱で大鹿歌舞伎を観ながら食べたという「ろくべん」をいただく。地元の食材がたっぷり入っている。溪流で釣ったイワナも。美味しい！

食後は青木さんの牛舎と福沢さんの牛舎を見学。ここで育てられる牛が精肉となり食卓に上る。こういう体験はなかなか出来ない。大鹿村の自然豊かな土地で育てられている牛たちにも「ありがとうね」と声掛け。お肉は食べるだけの私だけれど、大事に育ててくれる青木さん、福沢さん、それを切り分けてパックにしてくれる小村さん、そしてトラックで我が家まで運んでくれる安全農産の皆さん。食卓までの流れが目に見えてくることで、一段と食べ物の有難さが分かる。顔の見える関係をあらためて素晴らしいと思った。

2 日目はリニア工事現場見学。土日のため工事車両は通らなかったが、平日は 1 日 600 台から 800 台が村を行き来するらしい。1 日 8 時間として 1 時間に 75 台から 100 台が通る計算になる。途切れることなくだ(ウワ〜)。山の上の方にある福沢さんの牛舎では、牛用の水が枯れてしまったと聞く。因果関係は調査中というが、リニア工事の影響ではないかと思う。掘り出した土砂の置き場なのか、川岸には盛り土がある。

大鹿村での送電の鉄塔工事は完了しているが、肝心のトンネル工事が延びているそう。山の中腹に鉄塔がポツンポツンと見える。残された樹齢 300 年といわれるブナの大木の 1 本が遠くに見えた。工事はまだまだ続く。遅れて遅れていつ完成するのかと思う。本当にリニアは必要ですか。この自然を壊さないでほしい。

大鹿村の隣の喬木村ではリニアが地上を走る。山と

山の間に巨大な橋梁が何本も並んでいた。すごい圧迫感。こんな自然豊かな村にコンクリートの橋梁が立ち並ぶ



のは違和感がある。その周りには民家もある。今後ここでも問題が出てくるのではないだろうか。

2日間、大鹿村も暑かった。避暑どころじゃなかったけれど、自然に恵まれた地にいると何かを取り戻した気分になった。ブルーベリー狩りがしたかったなあと、ちょっぴり残念だったけれど、野菜直売所でたくさん買い込み帰路につく。

暑い、暑い夏です！

希望農場・8月農場たより 清野 光弘

6月の中旬くらいから、最高気温が25℃を超えて、時には30℃までになっていました。しかも湿度が高く、汗がなかなか乾かなくて、疲れが溜まる一方でした。

7月に入ると、益々、状況が悪くなりました。連日、30℃くらいの気温になり、1日に何度も着替えをしなければ、仕事ができませんでした。そして、ニュースでは北海道の7月の気温が平年よりも5℃くらい高いことが報じられました。「やっぱりか」そんなことを考えて、うなだれてしまいました。そして、7月末には、千島半島の大地震で津波警報が発令されました。農家の方の話を聞くと、フェリーが止まってしまい、農作物が本州へ出荷ができないと嘆いていました。

放牧豚たちも例外ではなく、毎日暑い日が続き夏バテになっている豚もいました。人間と同じで、暑さで水ばかり飲んでしまったのが原因です。そこで、私と職員で農場に水を撒いて何とか豚たちに涼んでもらいました。皮膚呼吸ができない豚は、水たまりで体中に泥をつけて体を冷やしていました。ただ夜になると気温がどんどん下がってきて、豚たちの行動が忙しくなりました。餌を食べ、農場内を走り回り、日中の豚とは比べ物にならないほどでした。夏本番ではありますが、皆様、お身体には十分気をつけてください。私たちも体調管理に気をつけて、美味しいお肉をお届けします。

山の記録

皆ヶ山(岡山県真庭市)

9月3日

19年以来6年ぶりです。キャンプ場の駐車場は覚えていて、スムーズでした。人は誰もおらず、屋に木陰になる場所に車を停めます。

キャンプ場を少し歩いたら登山口で、ブナ林の登山道が始まるのもうれしい。緩やかな傾斜からだんだんきつくなります。基本ジグザグはなく直登です。道はよく整備されていて歩きやすい。トンボの群れが乱舞して、ツクツクボウシがしきりに鳴いています。秋は確実に近づいています。二股山まで登って少し休憩すると、流れていく風が涼しい！ 鞍部まで下って行って、目の前に見える山頂に向かって登り返します。やっぱり2時間近くかかりました。山頂の標識はだいぶ傷んでいて、年月を感じます。ここはあまり手を入れてい



ないようです。今日は曇りがちで大山も見えません。ふもとの蒜山高原は晴れています。下りもスムーズですが、粘土質の土が固まってうっすら苔の着いたところがよく滑ります。わかっていて気を付けるのですが、やはり下りで足の疲れから十分踏ん張れずに、2度すってんころりと尻もちをつきました。手もズボンも泥だらけです。そのまま登山口に戻ってきました。キャンプ場の炊事場の水道栓をひねると豊かに水が流れ出し、汚れをふき取ることができました。またトイレも使えて、ドアを開けて中に入ると自動で照明がつくのです。さすが、観光地としてよく整備された蒜山高原です。利用させてもらって感謝です。

ニクヤノツブヤキ

- ◇ このところ読書づいてます。次から次に読みたい本が出てきて、今は「ゲートはすべてを言った」読書中。あと5冊予約中です。本に追われて嬉しい悲鳴。(幸治)
- ◇ とよなかパワーアップ体操のコグニサイズというのが難しい。右と左で違う動作をするのですが、いつになつたらできるようになるのか見通せない感じ。(幸子)